

第 17 回教育研究審議会

議事概要

開催日:平成 30 年 12 月 5 日 (水)

場 所:本部棟 3 階大会議室

出席者: 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、谷内治彦事務局長、小林重雄理事、西尾理学学長補佐、平野耕一学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、中地幸英文学科長、山本芳美比較文化学科長、寺川宏之学校教育学科長、高田研地域社会学科長、竹島達也大学院研究科委員長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、廣田健教職支援センター長、竹下勝雄地域交流研究センター長、大辻千恵子国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、小宮文彦経営企画課長、澄川宏学生課長

欠席者: なし

■挨拶

福田誠治学長よりあいさつ

議 事

- (1) 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について (語学教育センター) 3 件
 - 担当から資料 1-1 に基づき説明。一部修正し承認。
 - ・コマ数が異なるので修正する。
 - ◇英語コミュニケーション I・II
 - 担当から資料 1-2 に基づき説明。提案通り承認。
 - ・年度末退職による欠員補充等のための提案。
 - ◇英語コミュニケーション I・II
 - 担当から資料 1-3 に基づき説明。提案通り承認。
 - ・年度末退職による欠員補充等のための提案。
 - ◇日本語教授法特論 I (子ども)
 - 担当から資料 1-4 に基づき説明。提案通り承認。
 - ・年度末退職による欠員補充のための提案。
- (2) 非常勤講師担当科目コマの提案について (比較文化学科)
 - ◇Communicative English
 - 担当から資料 2 に基づき説明。提案通り承認。
- (3) 学術研究費等交付金申請要領の変更について
 - 担当から資料 3 に基づき説明。継続審議。
 - ・最終的には予算の問題なので、経営審議会に諮る。教育研究審議会で意見を聞きながら充実させていく。

- (4) 特任教員について
○担当から資料4に基づき説明。
・今まで国文学科に所属していた特任教授を英文学科で採用したい。
→前回の採用資料を参考に英文学科で書き直し、学長へ提出する。
・継続として手続きを行う。
- (5) ジェンダー研究プログラム委員会規則(案)について
○担当から資料5に基づき説明。提案通り承認。
- (6) 都留文科大学学生生活支援連絡会議規則(案)について
○担当から資料6に基づき説明。提案通り承認。
- (7) 2019年度非常勤講師の担当科目について
○担当から資料7に基づき説明。提案通り承認。
・非常勤講師の中に遠方から来ている方がいるが交通費はどうなっているのか。
→交通費の上限までの支給で納得して来てもらっている。
・所属している学科等の科目を持っていない非常勤講師がいる。所属をどうするべきか。
→できるだけ連絡が取りやすい所属にした方がいい。
→最終的には庶務人事担当が所属替えを行うが、原案は教務担当で作るのが望ましい。
→利害関係に発展しないよう事務を中心に所属の原案を作成し、教育研究審議会で審議する。
- (8) 平成31年度授業開講科目(案)
○担当から資料8に基づき説明。提案通り承認。
・社会教育主事講習等規程の改正に伴い、社会教育実習を開設するが、実習の準備が必要なので、1年前倒して開設する。
・来年度の社会調査実習の履修者が増える見込みなので、2クラスから3クラスへ増やす。
- (9) Science caféの開催について
○担当から資料9に基づき説明。提案通り承認。
・来年2月頃に甲府市内において、数学・理科に興味がある1,2年生を対象にScience Caféを開催し、本学の志望意欲を高めてもらう。
・今後は長期的なつながりで全国から来てもらう関係を維持、発展させていく必要がある。
・工業高校にもぜひ回ってもらいたい。

3 報 告

- (1) 2020年度学外研究について
○担当から2020年度の学外研究者について報告。
・他にも対象者がいるのであれば報告をお願いしたい。
・地域社会学科からも報告しているとのことなので確認する。
- (2) 都留文科大学語学教育改革経緯と今後の想定展開
○担当から資料10に基づき報告。
・今後は語学教育センターで非常勤講師の面談等を行い、担当科目依頼が可能か検討する。

(3) 谷村町駅舎を活用した地域づくりプロジェクトについて

○担当から資料 11-1、11-2 に基づき報告。

・地域社会学科の学生を中心に、産官学民連携による地域づくりプロジェクトが始まった。

4 その他

○来年度のセンター長の指名があった。

5 閉 会

以上